

心室で起こる不整脈

心室期外収縮（5 段脈）

心室内で正常より早期に起こった興奮の波を**心室期外収縮**と呼びます。図3-22の心電図は、**5心拍ごとに巨大なQRS群**の振れを観察することができます。R波と同方向に大きな振れを示すのは、右室側から起こった期外収縮で、反対方向の振れを示すのは、左室側から起こった期外収縮です。これは第II誘導で記録された心電図ですから、正常心電図のR波の振れと同じ方向に振れているところから、右室側から起こった**心室期外収縮**と考えられます。



図3-22 心室期外収縮（5 段脈）

患者さんが「脈が飛んだ」あるいは「胸がドキンとした」と訴えるのは、この巨大なQRS群のときではなく、正常心拍に戻ったときです。人によっては、まったく自覚しない場合もあります。多くは長時間緊張を強いられるようなときや、緊張が解けてホッとしたときなどに起こります。一度見ると忘れることができない波形ですね。

心室期外収縮（3 段脈）

図3-23の心電図も、前のものと同様に**3心拍ごとに巨大なQRS群**が見られます。期外収縮の数が増えてきたので、患者さんは頻繁に動悸を訴えるかもしれません。

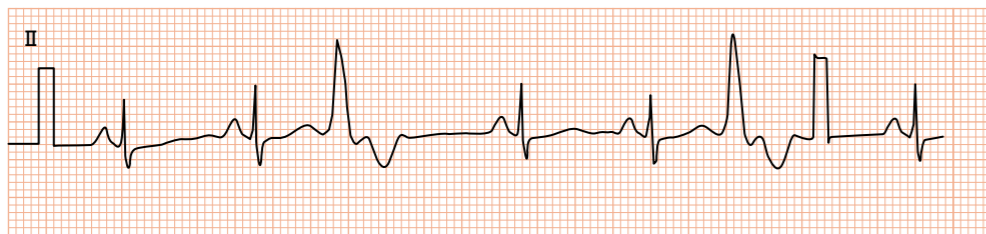


図3-23 心室期外収縮（3 段脈）

心室期外収縮（2 段脈・2 連発）

図3-24の心電図は、**1心拍ごとに心室期外収縮と正常心電図が交互**に見られます。そして、下段の心電図では第3心拍が期外収縮となり、続いてもう1回期外収縮が見られます。これを**心室期外収縮の2連発**と呼びますが、予後が悪いため要注意です。これは心筋がきわめて緊張状態にあり、心室の十分な回復を待たずに、心室からもう一度期外収縮が起こってしまうという状態です。

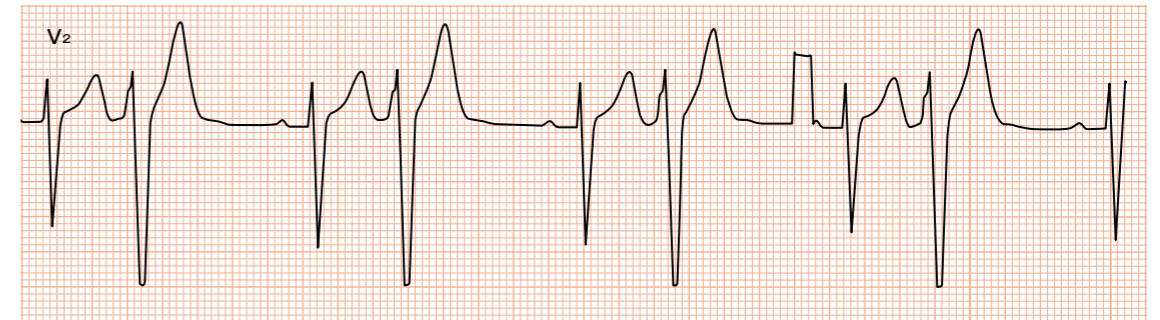


図3-24 心室期外収縮（2 段脈・2 連発）

一過性心室頻拍

図3-25の心電図はどうでしょうか？ 上段の第7心拍まで心室期外収縮が起こり、いったん正常に復帰したのですが、中段の第2心拍で1回、心室期外収縮が起こり、続く3心拍は正常ですが、再び心室頻拍になり、下段の最後の2心拍で正常に戻っています。これを**心室頻拍**と呼びます。幸いこの方は健常者でしたが、これが虚血性心疾患の患者さんに起こったとすれば、即入院治療が必要となります。

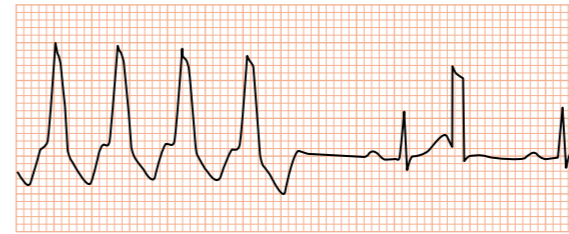
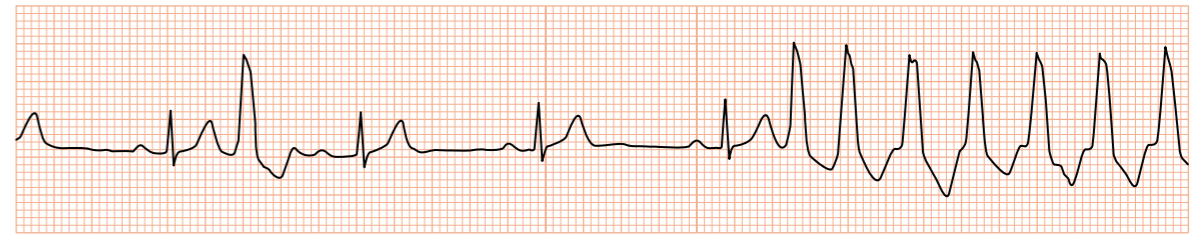
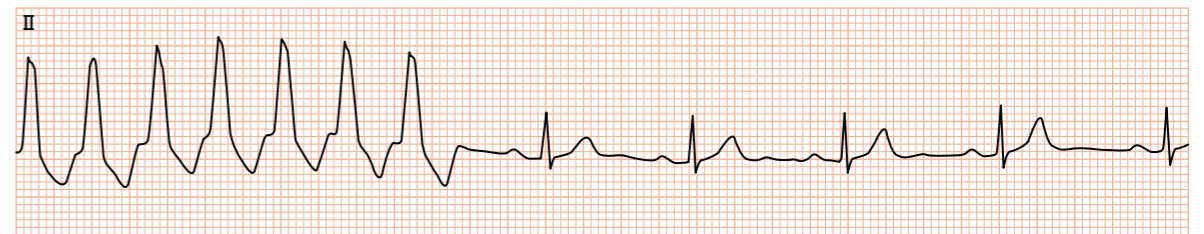


図3-25 一過性心室頻拍